

## 現行の改良目標に対する委員からの御意見と今後の方向性

—鶏—

(●：委員意見に対する方向性、○：事務局提案)

項目	委員からの御意見等	今後の方向性（素案）
全般	<p>①始原生殖細胞（以下、PGCs）については、地鶏等の貴重な遺伝資源のリスク分散が容易となる。一方で、保存には熟練の技術が必要で普及にハードルもある。</p> <p>また、鳥インフルエンザのような疾病が発生した場合、保存していたPGCsも一緒に廃棄処分しなければならない可能性があるため、国の財産として専用の保存の方法や場所等を定めてもよいのではないか。</p> <p>②小規模の母集団で地鶏を造成することは、近交係数が上がるため、やらない方がいいと考える。</p> <p>③一般消費者は、卵の単価を見て購買する中、国産鶏卵にどのように付加価値を付けて高くても買ってもらえるようにすることがポイント。</p> <p>④飼料の関係では、配合飼料における単位当たりのアミノ酸の使用量が増えている。しかし、成分の表示においては「その他」に多く含まれているように感じるため、細かく記載する等の検証が必要ではないか。</p>	<p>●鶏の改良増殖の基盤強化に向けたPGCs保存等による遺伝資源の安定的な確保を図る。</p> <p>●PGCsの保存については、関係者間での連携について検討が必要。</p> <p>●国産鶏の特徴を記述し、PRする。</p> <p>●細かい表示の方法は飼料メーカーが決めるが、不足するアミノ酸類を添加することにより生産効率の向上と環境負荷軽減効果があることをPRし、飼料メーカー等の表示方法を検討してもらう材料とする。</p>

		<p>○養鶏農家の家畜衛生、労働安全、アニマルウェルフェア等の取組をGAP手法によって推進する。</p> <p>○また、(公社)畜産技術協会の飼養管理指針を周知することによりアニマルウェルフェアを現場に浸透させる。</p>
--	--	---

○ 能力に関する改良目標

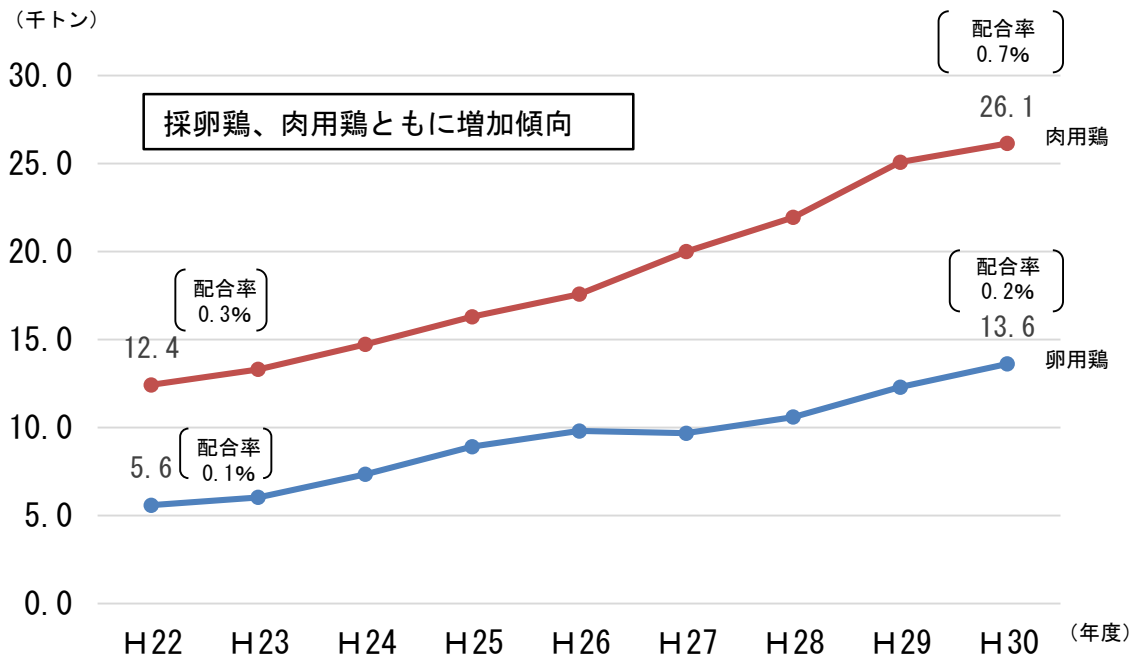
項目	委員からの御意見等	今後の方向性 (素案)
生産能力 (卵重量)	<p>①外国産種鶏の導入により、卵は多産かつ年々小型になる傾向があるが、消費者ニーズはL卵などの大玉にある。また、一般的に産みたてで、黄身は濃く、赤玉の消費者受けが良い。</p> <p>②MS卵の方が、大玉よりも若い鶏が産んでいる卵であることをアピールしていくことも必要ではないか。</p>	<p>●卵重量は、消費者ニーズを踏まえながら、幅を持たせた現状の目標を維持。</p> <p>●鶏改良中央推進協議会等の場で消費者ニーズを改良関係者に伝達するとともに、PRの方法等について意見交換を継続的に行う。</p>
地鶏等	<p>①5年前から検討事項になっている地鶏の新たな指標については、ある程度パターン化して分類する方が良いのではないか。</p> <p>②地鶏の売上が芳しくない場合もあり、コストの関係で売りたい値段で売れているのは半分くらい。今後の地鶏肉は、品種の掛け合わせで得られる美味しさではなく、良いものを作出して売り出せるようにする必要がある。地鶏と一括りにしないで、牛肉のようにランク付けをしてはどうか。</p>	<p>●多様な地鶏のランク付けについて検討したものの、地鶏生産者等から第三者が客観的にランク付けする指標設定は難しいとの意見。</p> <p>●<u>一律に地鶏の定量的指標を設定することについて、意見を伺いたい。</u></p>

	③県では地鶏の旨味について、核酸レベルで分析しているところもある。一方で、日齢だけでも数値は変化し、県単位で鶏の全システムに対する統一的な指標を全て設定することは難しいので、「おいしさ」については、国で方向性を示すような指導も期待。イノシン酸と核酸の量は地鶏ごとに様々で、パターン化して定量的な目標の設定は難しい。	● <u>おいしさに関する統一的な指標を示すことのメリット・デメリットについて検討する。</u> (特定の、または全てのアミノ酸を増やす方向性を打ち出すことにより、多様な地鶏の価値を損なわないか 等)
出荷日齢	①外国産種鶏の改良の結果、ブロイラーの体重は3kgを超えており、食鳥処理場で処理するのが困難な場合も出てきている。飼料効率の向上から、出荷日数は45日程度で調整しているのが現状であり、早期出荷の傾向にある。	●肉用鶏の能力に関する目標数値に、参考として掲げられていた出荷日齢に係る指標を追加し、昨今のお荷日数の縮減状況を踏まえ、 <u>目標を設定することを検討。</u>

○ 能力向上に資する取組

項目	委員からの御意見等	今後の方向性（素案）
食味等	①鮮度については、産卵日についての表示もあるので、新しい指標が必要かは検討する必要がある。 ②ハウユニットについては、卵の鮮度を表す一般的な指標として名前は浸透している一方で、その計測方法や数字の意味するところはあまり理解されていない。ハウユニットに代わる新たな指標があればよい。	●鮮度に関する指標としてハウユニットがあるが、 <u>その数字の意味等について、消費者に広く周知するための説明ぶり等を検討。</u>
改良手法 (国産鶏の系統 造成等)	①県の限られた財源で雄系と雌系を造成・維持することは難しい。例えば、雄系は国で作成、雌系は県で特色あるものを作り掛け合わせることにもしても良いと考える。	●地鶏作成における雄系、雌系に何をを用いるかは、地域の創意工夫とブランディングによるものとするが、(独)家畜改良センター素材鶏を用いて地鶏の銘柄の約8割にこの素材鶏が使われていることを明記。

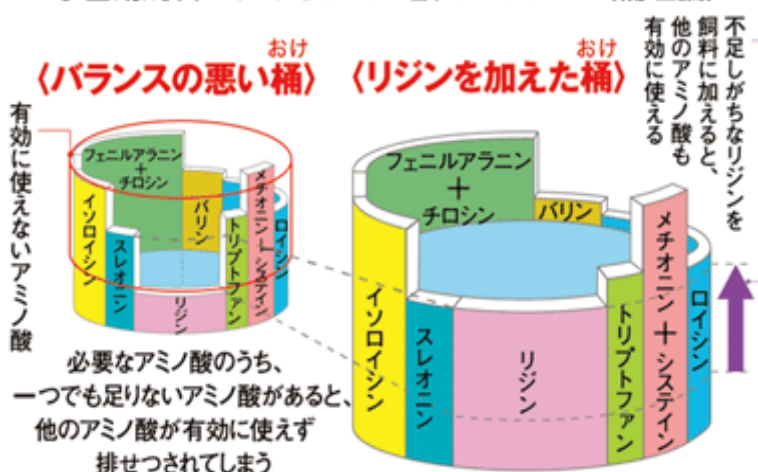
		○育種選抜手法の一つとして、遺伝子情報の積極的な活用を図る。
飼料用米の利活用 ・ 認証制度	<p>①飼料用米は消費者に訴求しやすいが、農家が飼料用米を給餌して生産された畜産物が売れ残らないように捌ききれぬのが課題。</p> <p>②飼料用米生産に関する国の補助がいつまで続くか分からないので、生産者等は投資できない部分がある。</p> <p>③良い鶏ができていても普及ができていないことが課題。スーパーのバイヤーまで訴求できていない現状を打開するためには、地鶏JASのような差別化されたものとして、肉用鶏のみでなく、卵も含めた表示制度が必要。飼料用米で飼養した国産鶏種で、鶏糞を農家に還元するなど、持続可能なSDGsに合致したものとしてアピールするといった売出し方を検討するべきと考えている。</p> <p>④地鶏については、価格がブロイラーと比較して高いため、収益性が悪いことがある。まずは国産鶏種が一般的なブロイラーとは違うということを消費者に理解いただくことが重要であるが、その手法としてJAS認証は分かりやすいのではないか。また、鶏糞のリサイクルも上手く消費者に知ってもらい、SDGsを謳うことができればよい。</p> <p>⑤今後畜産における鶏はどの程度推進、維持するのか考えるべき。その中で鶏卵、鶏肉の位置付けや、鶏糞の活用による飼料用米の生産をどうしていくのかという視点に立ち、コストを下げるには飼料用米等の自前の餌と循環の切り口が必要。</p>	<p>●飼料用米を活用し販売している事例を紹介していく。</p> <p>●現在、持続可能性（SDGs）を考慮した鶏卵・鶏肉のJAS規格案が提案されている。</p> <p>●手続きを経て上記のJAS規格が制定された際には、業界関係者とともに広く周知を行う。</p> <p>●供給量等については、新たな食料・農業・農村基本計画の検討の中で議論。</p>
輸出	①海外の嗜好性を踏まえ、輸出に打って出るべきである。	●生産性を高め、輸出を積極的に展開していく方向性を記述する。



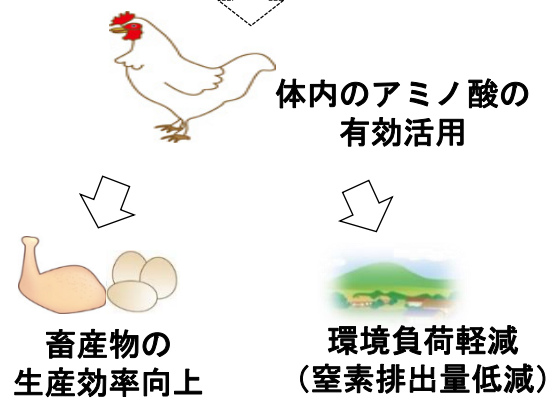
資料：（公社）配合飼料供給安定機構「飼料月報」

## 飼料へのアミノ酸類添加による生産性向上

### 家畜用飼料におけるアミノ酸のバランス (桶理論)



穀物などの飼料に不足するアミノ酸「リジン」の添加



資料：味の素株式会社ホームページ

# 畜産生産力・生産体制強化対策事業

【令和2年度予算概算要求額 1,636（1,383）百万円】

## <対策のポイント>

肉用牛・乳用牛・豚・鶏の改良や飼料作物の優良品種の利用を推進するとともに、肉用牛の繁殖肥育一貫経営や地域内一貫生産、国産飼料の一層の増産と着実な利用の拡大のための体制整備により、畜産の生産力及び生産体制の強化を図ります。

## <政策目標> [平成25年度→令和7年度まで]

- 生乳生産量：745万トン→750万トン
- 牛肉生産量：51万トン→52万トン
- 豚肉生産量：131万トン→131万トン
- 鶏肉生産量：146万トン→146万トン
- 鶏卵生産量：252万トン→241万トン
- 飼料自給率：26%→40%

## <事業の内容>

## <事業イメージ>

### 1. 家畜能力等向上強化推進

- 遺伝子解析情報等を活用した新たな評価手法や始原生殖細胞（PGCs）保存等技術により、生涯生産性の向上、多様性を確保した家畜・家禽の系統・品種の活用促進、肉質・繁殖能力の改良の加速化等を推進する取組を支援します。

### 2. 繁殖肥育一貫経営等育成支援

- 肉用牛生産の構造改革を進め繁殖基盤の強化を図るため、肉用牛肥育経営の一貫化や地域内一貫生産を推進する取組を支援します。

### 3. 草地生産性向上対策

- 不安定な気象に対応したリスク分散等により粗飼料の安定的な収穫を確保するため、草地改良や飼料作物の優良品種利用の取組を支援します。

### 4. 飼料生産利用体系高効率化対策

- 飼料生産組織の作業効率化、草地基盤に立脚した生産性の高い酪農・肉用牛生産、国産濃厚飼料の生産振興の取組を支援します。

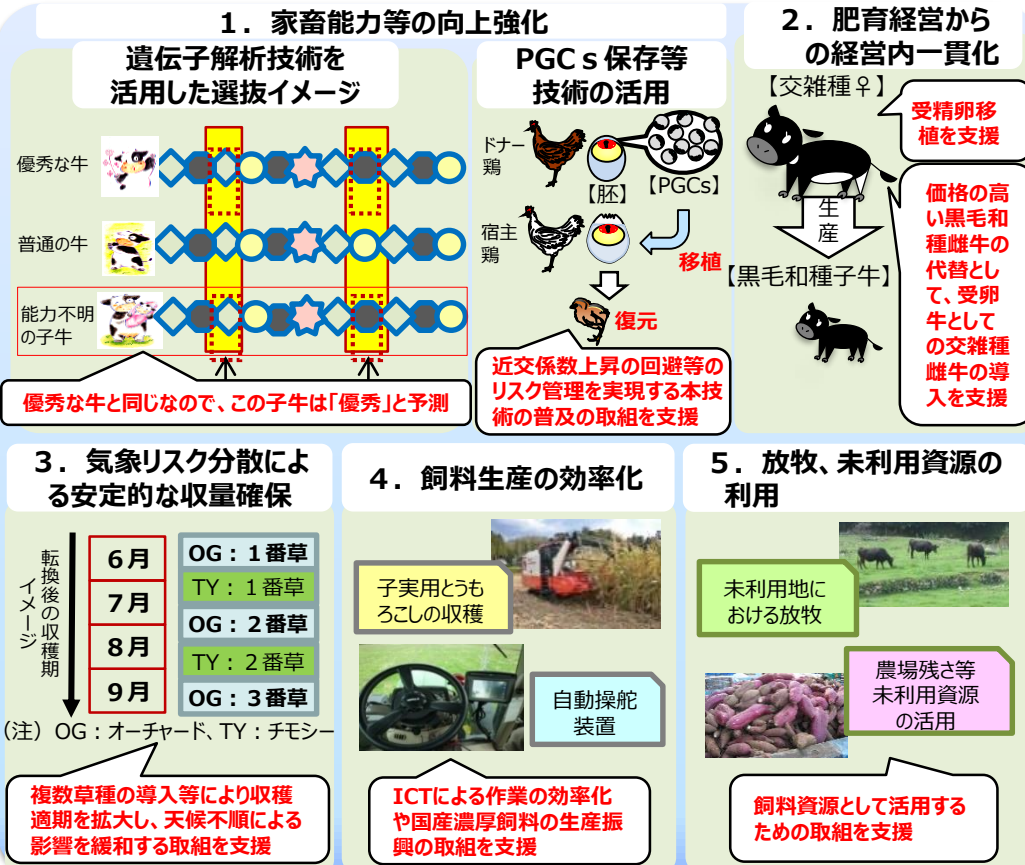
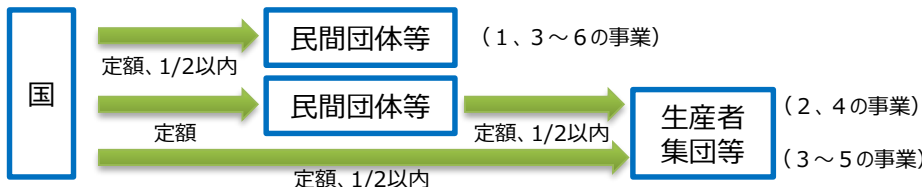
### 5. 国産飼料資源生産利用拡大対策

- 放牧、未利用資源の利用、有機畜産物生産の普及の取組を支援します。

### 6. 持続的飼料生産対策

- 温室効果ガス削減飼料の流通量等のデータ収集・分析等の取組を推進します。

## <事業の流れ>



【お問い合わせ先】 (1, 2の事業) 生産局畜産振興課 (03-6744-2587)  
 (3~6の事業) 生産局飼料課 (03-6744-7192)